

2-8 番外編：刻み系アレンジ

刻み系アレンジとは？

リズム感のあるフレーズやパターンを刻むアレンジスタイル。

ストリングスは、元来メロディを演奏することを得意としているが、一方でザクザクとリズムを刻むことにも長けている。

その特徴を最大限に活かし、パーカッシブな刻みを用いたフレーズでリズム感を演出するのがこの手法。

シンプルにリズムを刻むだけでも、タイトで歯切れの良い印象が得られる。

刻み系アレンジ

49 50 51 52 53 54 55 56 4

2B

Vln. I *mf* *f*

Vln. II *mf* *f*

Vla. *mf* *f*

Vc. *mf* *f*

57 58 59 60 61 62 63 64

2C

Vln. I *f* *ff*

Vln. II *f* *ff*

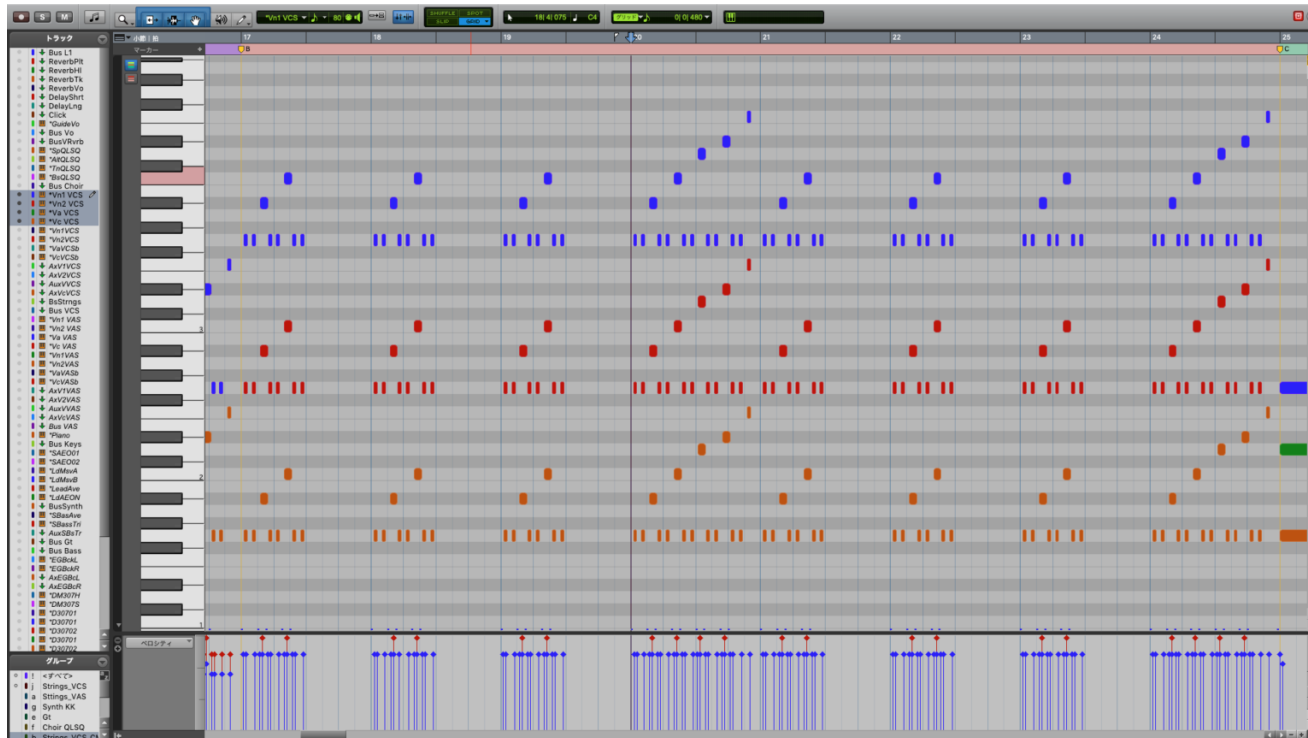
Vla. *f* *ff*

Vc. *f* *ff*

刻み系アレンジの種類

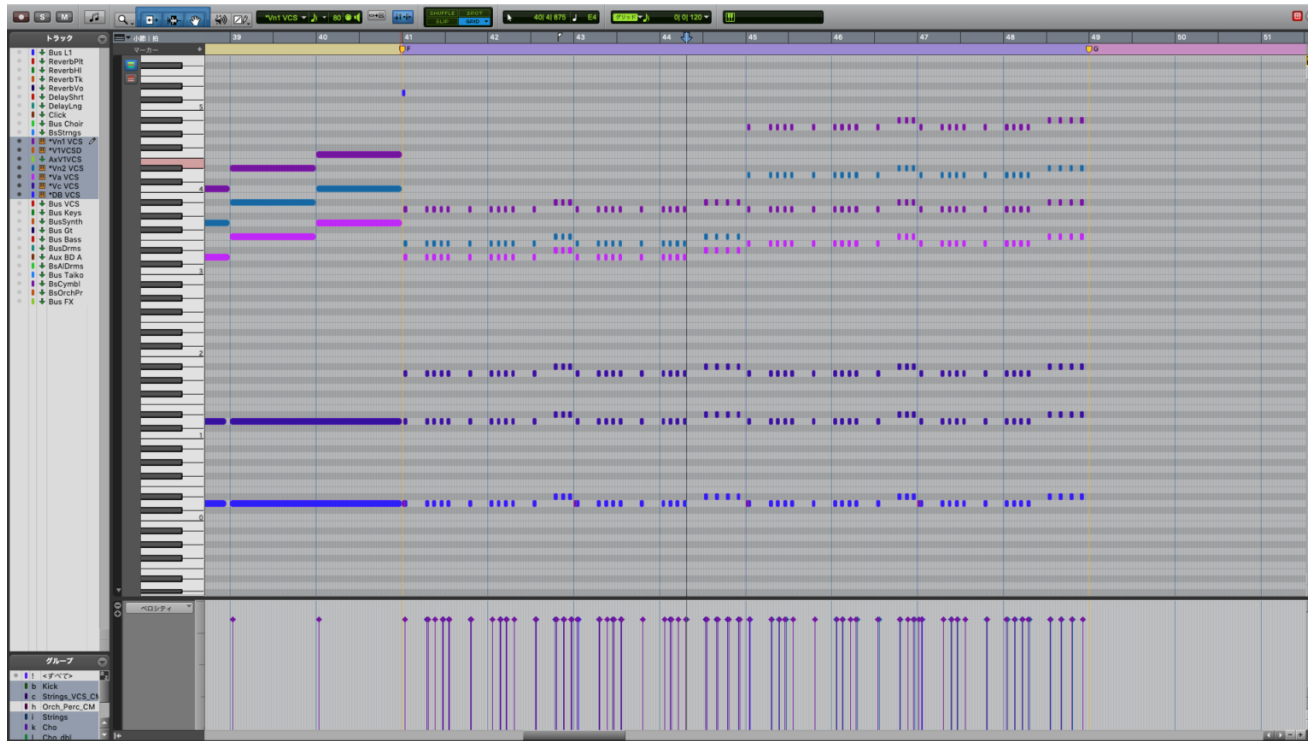
刻み系アレンジの種類①:リフ型

ストリングスで「リフ(=リフレイン)」を演奏するタイプのアレンジパターン。ストリングス全体でリフを演奏することで、独特の迫力が出る。



刻み系アレンジの種類②:コード型

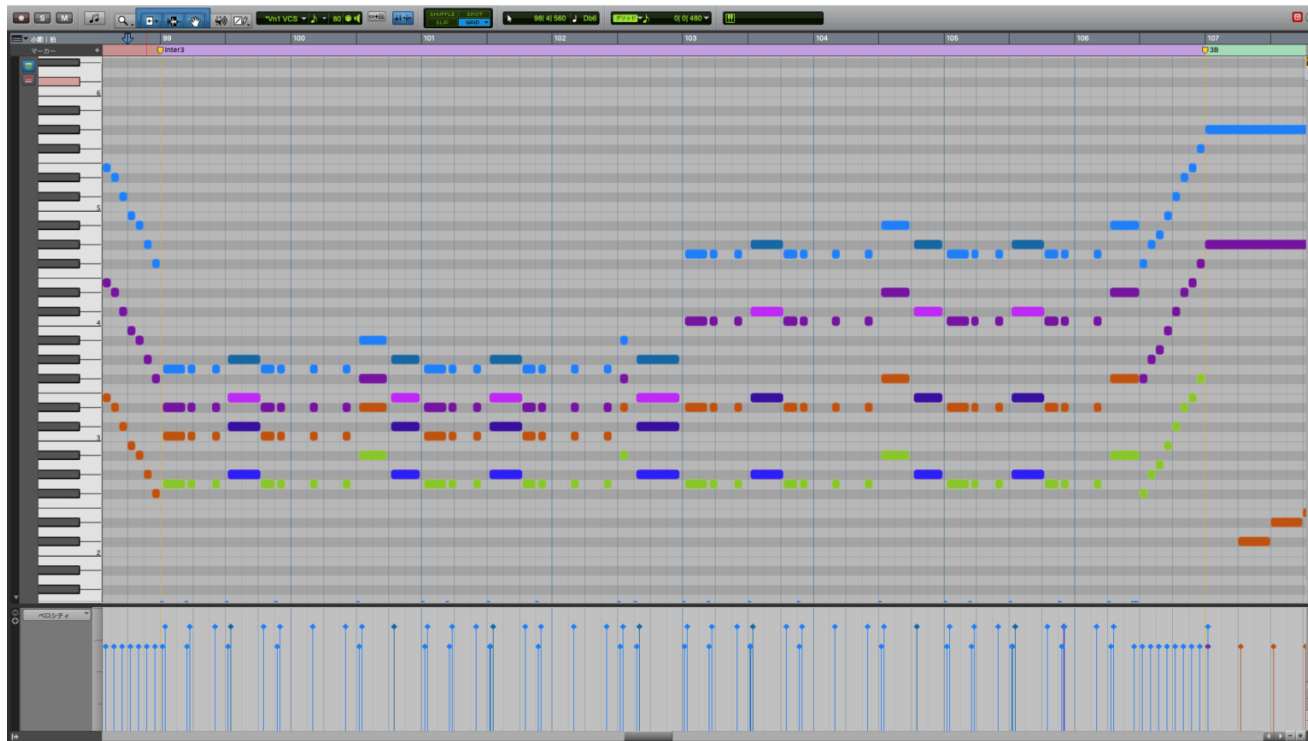
リフ型に比べて、より伴奏的なアレンジスタイル。ストリングス全体でコードを形成しながらバックングのリズムを刻むことで、はっきりとしたリズム感が得られる。



刻み系アレンジの 応用テクニック

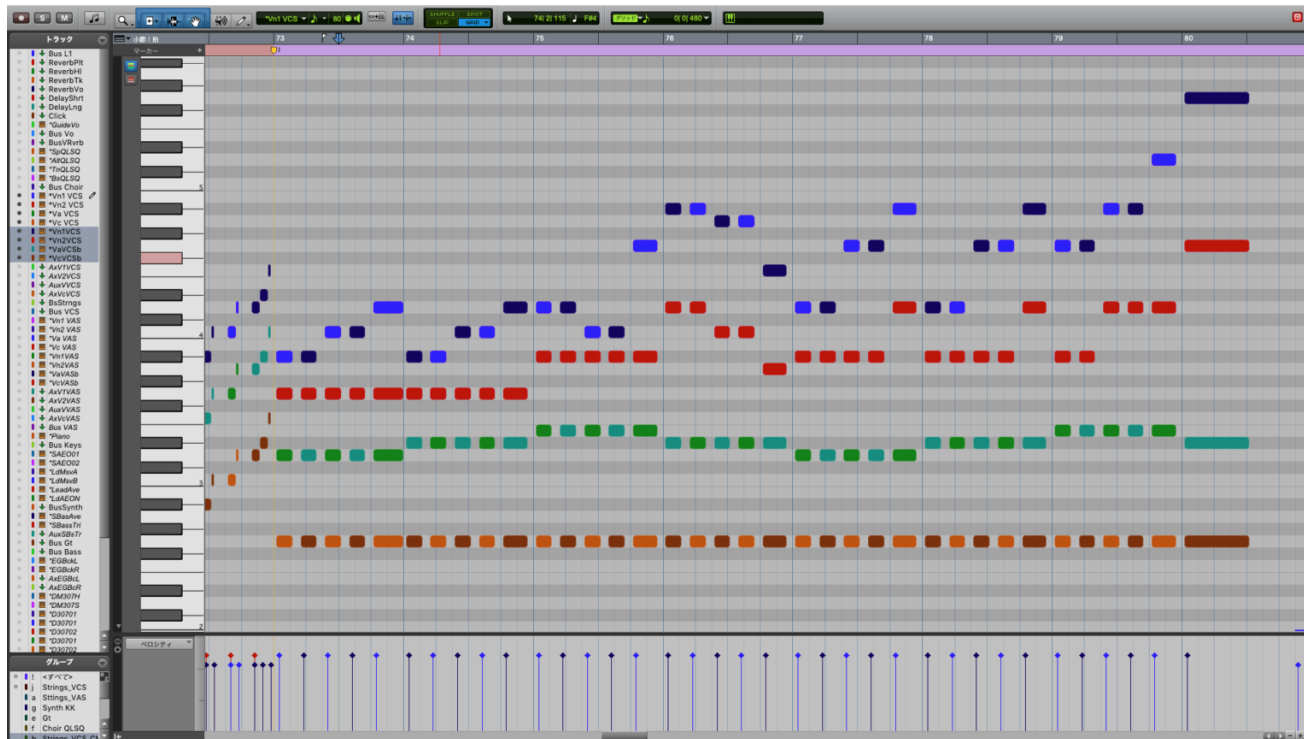
刻み系アレンジの応用①:コードを形成しながらリフを演奏

コードを形成しながらリフを演奏するパターン。ピアノやギターのリフと同じような感覚で作ってOK。(ただし、同時に鳴らせる音数はストリングスの基本に準拠。)



刻み系アレンジの応用②:コード型をよりメロディアスに

通常のコード型はいかにも「伴奏」というイメージだったが、コードを構成する音(とくにトップノート)に動きを出すことで、よりメロディアスなアレンジに仕上がる。



The screenshot displays a music production software interface, likely Ableton Live, showing a piano roll view. The interface includes a list of tracks on the left, a piano roll grid in the center, and a MIDI piano roll at the bottom. The tracks listed include various buses and instruments, such as Bus L1, Reverb, Delay, and various VCS (Virtual Control Surface) tracks. The piano roll shows a sequence of notes across multiple tracks, with a focus on the top notes of the chords, which are highlighted in blue and red. The MIDI piano roll at the bottom shows a sequence of notes, with a focus on the top notes of the chords, which are highlighted in blue and red.